

## 代神の予言から救世の道を

最高位の神、大山祇命は、深い神慮の下、長い人類の歴史の中で、昭和の時代、日本の地を選ばれて降臨されました。昭和二十一年十一月十五日、横浜市南区宮元町四丁目八二番地、現神総本部、聖地に誕生した一人の御子に、その御魂を封じ込められたのです。「森日出子」と名付けられたこの御子こそ、大山祇命の化身、供丸姫先生でした。

それに先立ち、「稲飯定雄」として人間界に遣わされていた大山祇命の代神は、ほぼ時を同じくして病の床にあり、神から「使者」の命を受けられました。それが、供丸齋先生でした。そして、昼夜を分かたず、神の御名を唱え続けられていたところ、昭和二十三年九月二十三日、大山祇命は供丸齋先生に下がられたのです。

さらに、供丸齋先生は、神から使い人として必要な数々のご教育を学ばれた後、神のご指示に基づき、昭和二十八年九月二十三日、横浜市西区戸部町のわずか六畳のご神前を総本部として「大山祇命神示教会」を設立され、神の实在を世に示し始められたのでした。

神から「神示人相鑑定官」の肩書を受けられた供丸齋先生は、多くの人々の心と運命を見破りながら、大山祇命の存在、その尊さを語り続けられました。そこには、百発百中の予言とともに、信じ難いほどの奇跡が数知れず現され、力ある神の实在が広まっていきました。

しかし、大半の人々は、心の赴くまま御利益のみを求め、神の教えは遅々として浸透しない状況でした。そのような実情も重々ご承知の上で、供丸齋先生はひたすら神の实在を表し、真実の救いが実現する「直使」誕生の時をじっと待たれていたのです。

一方、供丸姫先生は、成長されるに当たって、健康を害されていきました。医学的には原因も分からず、ただ容体は悪くなる一方で、二十歳を迎え、原因不明の病に命も危ぶまれていた時に、供丸齋先生に尊い命を救われたのです。

昭和四十二年二月四日、供丸姫先生は、命を救われて、その御礼のため、供丸齋先生の御元をご家族とともに訪ねられました。神の世界から人間界に遣わされた直使と代神の邂逅の時でした。この時、供丸齋先生は、初めて会われた供丸姫先生の神示人相に、何と大山祇命の御魂を見て取られ、真の救世主となることを見抜かれて仰せになりました。

あなたは、やがて神の道に生きる人間であり、生涯を神とともに暮らすであろう

供丸齋先生のこのお言葉が人類救世の真実を示す大予言となり、以来供丸姫先生は神の手の中で徐々にそのご正体を現され、人の世にまことの救いの道を開く、尊く貴い人生を歩まれることとなるのです。

## 瞬くうちにその本質が

供丸齋先生から「やがて神の道に生きる」と言われても、それがどれほど深い意味をもつか、その真意